

寄せられた感想（令和6年度実施分から抜粋）

◆被爆体験証言講話

○岸和田市立大宮小学校（大阪府）

令和6年12月2日 83名

どんな体験をしたのか。家族とどんなふうにご一緒に過ごしていたのかを詳しく教えていただいたので、子どもたちは想像しやすかったと思います。そして今でも夢を見続けるというエピソードは、戦争がどれだけ心に傷を植え付けるか、戦争を知らない子どもたちにも伝わったと思います。今の自分たちの生活と比べられるような内容でした。平和学習に限らず、命の尊さや食べ物、仲間を大切にすることを教えてくださいました。



○豊明市立栄小学校（愛知県）

令和6年12月2日 99名

原爆が落とされた直後の人々や町の様子が、当時3歳の目で見るととても恐ろしかったこと、被爆した後体調の悪い中、ご家族に支えられ生活していた様子が、とても分かりやすく伝わりました。

講師の生き方がとても力強く、本当に辛い状況を乗り越え、やりたいことを見つけ今もいろんなことにチャレンジしていらっしゃる姿に、心を打たれたという子も何人もいました。平和を願うこと、戦争を二度と起こしてはいけないということを考えることができました。



○今治市立大三島中学校（愛媛県）

令和6年12月3日 90名

ご自身や家族の被爆体験を通して、原爆の怖さを改めて考えさせられました。質疑応答では、生徒からの質問に丁寧に答えくださり、生徒に千羽鶴までいただきました。生徒や保護者などの感想は、心に響くものばかりでした。優しい口調の中にも、原爆への怒りはすごく感じとることができました。世界各国で講演



しているだけあって、内容、話し方の全てにおいて、生徒・職員などを惹きつけるものでした。

○綾部市立西八田小学校（京都府）

令和6年12月12日 57名

ご自身の被爆体験をもとに、その時の様子を鮮明にお話しいただき、大変良く伝わりました。経験されたご本人だからこそ語れることができる講話でした。家族の愛、生きることの大切さ、戦争は絶対に許されないこと…子どもたちの心に響いていました。児童からの質問にも、一人ずつに丁寧に返答いただき、さらに講師の思いや命を大切に生きることについて、子ども達もしっかり考えることができたと思います。



○大阪市立中央小学校（大阪府）

令和6年12月6日 170名

たくさんの国が原爆を保持している現状を聞き、原爆の被害の詳細を聞きました。爆心地の様子を聞き、その後講師の体験談を聞いたので、私たち教師が話をするよりも児童に響いたと思います。平和学習では出来事を中心にしていたが、講師は心理面や身体の影響もお話された事も印象に残りました。やはり体験者の言葉は重みが違うと思いました。どの児童も平和な世の中にしたい気持ち、今戦争のない日本で暮らすことができていること、命のありがたさ、家族、大切な友達のことを考えながら聞いていました。



◆被爆体験伝承講話

○浅口市立寄島中学校（岡山県）

令和6年5月8日 22名

被爆者の生涯について、本人が感じた当時の様子やその時に感じたことを分かりやすく語っていただきました。調べ学習では分からない、当事者の気持ちまで知ることができたので、とても貴重な時間となりました。生徒たちも自分たちと同世代の経験談とい



うこともあり、真摯になって話を聞いている姿がありました。
質疑応答の時間では、普段発言しないような生徒も進んで、伝承者の方に原爆について質問する姿があり、意欲的に知ろうとしていました。

○海津市立石津小学校（岐阜県）

令和6年7月17日 49名

スライドを交えながら、分かりやすく当時の様子を話していただきました。犠牲者数や原子爆弾の大きさ、爆発の規模など具体的な数値で説明がされ、児童は理解しやすかったと思います。当時小中学生だった犠牲者の当時の生活ぶりや、原爆投下により人生が失われた話から、児童自身が戦争や原爆投下のイメージがしやすかったです。児童に理解しやすい言葉で、聞き取りやすい速さで話してくださいました。時折児童に問いかけをしながら、最後まで集中して参加できるよう配慮していただきました。



○茨城県立水戸第三高等学校（茨城県）

令和6年9月10日 284名

戦争を知らない生徒たちにとって、原爆や戦争についての話や、被爆者の経験についてお話を伺い、原爆や戦争がより現実的なものになりました。講話をとおして、戦争はもちろん原子爆弾の威力や投下前後の様子についても学び、原爆投下の恐ろしさを目の当たりにしていました。生徒からの質問にも真摯に答えていただき、伝承者の視点を基にした平和公園や資料館の見どころを教えてくださいましたので、修学旅行での平和学習をより深めることができる内容になっていました。



○美唄市役所（北海道）

令和6年10月3日 32名

原爆について、様々な視点から詳細なデータを交えて説明していただきました。原爆が空中爆弾であった、広島に投下された理由、放射能の影響、また当時の広島の様子が説明いただくことで、原爆が及ぼした甚大な被害がわかりやすく、また犠牲



者となった方の状況もリアルにお伝えいただきました。

被爆者の原爆に翻弄された生涯を主観的に語っていただきました。語り口からも心情が伝わってくるようでした。

○大分県立中津東高等学校（大分県）

令和6年11月19日 750名

戦時中の原爆が投下される前の広島の状態について、軍事基地としての特徴やその施設で働いている子供たちの日常が、実際の写真を通じてよく理解することができました。原爆被害については、大量破壊、大量殺りくが瞬時に、かつ無差別に引き起こされ、放射線による障害がその後も長期間にわたり人々を苦しめたことなどが十分に伝わる内容でした。具体的な被爆体験談を通じて、その光景が目には浮かび、生徒の心に迫るものがありました。今回の講演を通じて、戦争は悲しみを与える存在でしかない。戦争を過去のこととして考えず、平和を願いながら生きたいという多くの感想が寄せられました。



◆家族伝承講話

○北九州市立石峯中学校（福岡県）

令和6年7月5日 170名

北九州市では、九州を中心とした戦争のようすについて学ぶことは多いですが、広島原爆についてじっくりと話を聞くことが今まで少なかったため、大変貴重な機会となりました。原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを、講師のお母様のお話を交え、中学生にもわかりやすくお話していただきました。また、パワーポイントを使って生徒が集中できるように工夫しながらお話くださったので、最初から最後まで集中してお話を聞くことができました。生徒たちを引き込むお話の仕方、とても分かりやすい言葉をえら選んでお話ししてくださったのが印象的でした。生徒たちは、これから戦争がない平和な世界を築くためにはどのようなことができるのだろうか、真剣に考えながら聞くことができました。



○瑞浪市立稲津小学校（岐阜県）

令和6年9月11日 89名

始めに原爆のことを詳しく話して下さったので、原爆のことをあまり知らない子どもも話の内容をよく理解することができました。戦争や原爆を知らない小学生ですが、分かりやすい内容で丁寧に話していただき、講演後も教室でたくさんの子が積極的に感想を話す姿が見られるなど、子どもの心に残る講話でした。

被爆者であるお母様も、子ども達と同じくらいの5年生だったと聞き、真剣にメモを取りながら聞いていました。分速、温度などを話す時に、「鉄の溶ける温度は〇〇度だから…」など、例を出して話して下さったので分かりやすかったです。



○栃木県立真岡市北陵高等学校（栃木県）

令和6年10月11日 140名

講師のお父様の立場と通して、戦時中の生活の様子や原爆投下日、被害状況、核兵器の脅威などをお話していただきました。戦争によってもたらされた惨禍や悲惨さを理解するとともに、何よりも平和の大切さを改めて感じることができました。生徒たちが「自分ごととして」過去の戦争に向き合い、未来を変えていくために自分ができることを考えるきっかけになったと思います。原爆投下や原爆被害の実相の語りでは緊迫した状況を再現して下さり、緊張感をもって拝聴することができました。

視覚的な情報とともにお話していただき、生徒たちは理解しやすかったと思います。貴重なお話を拝聴することができ、大変感謝申し上げます。



○大田区立山王小学校（東京都）

令和6年11月13日 130名

当時の原爆の様子やその後の人々の苦しみ、そしてご家族の苦しみについてお話しいただきました。地図や写真、実物をお使いいただきながらご説明いただきましたので、児童は様々なことを理解したようです。例えば、「平和記念式典が毎年行われている意味



がわかった。」「多くの方が亡くなり、家族や友達を深い悲しみに落としている。そんな戦争のことを、塾のテキストには簡単に書かれていた。心に体に傷を負った人達のことを、こんなにも簡単に書いていいのかと思った。」「平和とは、みんなが平等に幸せに暮らすことだと思った。」などと児童が感想を書いております。我々教員にはできないお話をしてくださいます、感謝申し上げます。

◆原爆体験伝承講話

○岐阜市立岐阜西中学校（岐阜県）

令和6年10月1日 180名

原爆が広島に落ちた理由から、放射線の被害がどのくらいだったのかを詳しく説明していただいたので、意図をもった攻撃であったことや被害の悲惨さがよくわかりました。平田忠道さんの被爆体験のお話では、平田さんの中学校時代の話や手記などを見せていただいたことで、平田さんの当時の生活と今の自分たちの生活を比較することができ、今の日本がいかに平和で恵まれているのかを実感できました。お話の中で東京大空襲にも触れていただいたので、子どもたちが事前学習で学んだ岐阜空襲とのちがいについても知ることができました。



○千葉県立長生高等学校（千葉県）

令和6年9月5日 289名

広島原爆について平田忠道さんから伝えていただいた話を聞きました。伝承者はとても話の内容に惹きつけられる話し方でした。話す速度も声のトーンも聞きやすく、途中、スライドで映し出される挿絵が、話し手からの内容と話し方で生々しさを想像させる感じを受けました。修学旅行事前学習として非常に学習効果が期待される内容と話し方でした。途中、映し出される絵が想像力を掻き立てるように感じました。



○江戸川区立第三葛西小学校（東京都）

令和6年9月9日 90名

本校のある「西葛西」にももしも原爆が落とされていたらどの程度の被害になるのか想定していただいたスライドには児童も驚いていました。イメージすることが難しく、広島から遠く離れた東京であるがゆえ難しいものもありましたが、原爆をカラー化した本をご持参くださったり、質問に丁寧に答えてくださったりと児童が安心して話を聞くことができました。優しい語り口でとても聞き取りやすかったです。実際の話聞き、セリフや本人が言っていた言葉は児童も真剣に聞き入る姿がありました。



○多摩市社会福祉協議会（東京都）

令和6年10月4日 15名

はじめに当時の広島の様子や投下後の街の様子、講師の伝承者となったきっかけなど、広島と講師の背景を聞きました。更に今原爆が投下されたらどの範囲にどのような影響があるか、多摩市の地図を見ながら説明されたことでよりリアルな感覚になって話を聞きました。

平田さんの被爆のお話では、広島の子供が友達に語るという設定で方言を使って語っていただいたことにより、私たちが広島で直接友達に話を聞いているような感覚になりました。悲惨な様子や幼い子ども達はどう生き抜いたのかなど、自分の事として捉えて色々考えることが出来ました。



○練馬区立石神井南中学校（東京都）

令和6年10月12日 385名

広島被爆体験者の家族から受け継いだ被爆体験や広島への思い、そして平和を希求する講師の平和への思いをお話いただきました。原爆の悲惨さは一瞬にして大切な家族の命を奪うということ、特に、戦争に関係のない女性、子ども、お年寄りなどの生命が多く犠牲になっていて、残された家族は戦争後も苦しみ続けるという話が胸に迫りました。原爆の被害は二度と起こしてはならないということ、そして平和の尊さについて改めて考えさ



せられました。

◆被爆体験記朗読会

○郡山市立逢瀬中学校（福島県）

令和6年7月11日 83名

はじめに、郡山市は広島原子爆弾の模擬爆弾であるパンプキン爆弾が駅周辺に落とされ、犠牲になった方がいる地区であることを説明していただきました。若い世代の子どもたちは戦争や原爆が遠い世界の話のため、まず、そのことに驚いていました。その後DVD視聴、詩の朗読を行っていただきました。皮膚が焼きただれている姿やがれきの山の映像、穏やかな生活であった家族が一瞬でなくなってしまった内容の詩、原爆の後に降り注いだ黒い雨と後遺症の話と想像以上の内容でした。

ひとつひとつ丁寧な語り口調でアナウンサーのような発声に引き込まれました。平和への思いが込められており、時間が過ぎるのがあっという間でした。



○胸沢学園女子中学校・高等学校（東京都）

令和6年10月16日 546名

DVD 視聴、PPT を使ってのお話のあと、朗読を聞かせていただき、その後、生徒数名による朗読と感想の発表をしました。説明では、中高生くらいの年齢の男女は同じ道を歩けなかったなど生徒にとっては驚く情報も含まれ、朗読を聞く前に興味を持たせていただいたと思います。生徒の朗読に関して、講師が壇上で呼びかけたり、マイクを持って生徒に促して下さったりしたので、思った以上の人数が朗読をして感想を述べました。予め朗読する生徒を決めずに臨みましたが、却って自然でよかったと思います。内容が大変濃く、朗読者のお二人と生徒のやりとりがとても良かったです。お二人に感謝しています。



○交野市立藤が尾小学校（大阪府）

令和6年11月8日 41名

広島の地理的特徴や軍都としての役割も説明してくださいました。「原爆被害に遭ったまち」であると同時に、軍都として「他国へ害を与える側に加担していたまち」でもあったという二面性を持ち合わせていたことに、はっとしました。体験記を聴く時間がとてもよかったです。子どもたちも目をつぶって、一生懸命想像しながら聞き入っていました。途中出てきた難しい用語には解説が入ったり、地図を用いて爆心地との距離感がわかったりしたのも、よりイメージしやすかったです。朗読体験では声に出して読み、その自分の声を聞くことで、他の人の朗読を聞いたり黙読したりするのはまた違う感じ方ができました。ただただしくも、子どもなりの朗読が聞ける、素敵な時間でした。朗読では、声の大きさや高低、間の取り方によって、まるで自分が体験したかのような、目の当たりにしたかのような臨場感がありました。



○神戸市立多井畑小学校（兵庫県）

令和6年11月25日 27名

原子爆弾のことや被害を受けた方々のことなどを平易な言葉で分かりやすく伝えていただいたので、子どもたちも終始興味をもってお話を聞くことができました。心のコもった朗読を間近で聴くことができ、平和について考えを深める良い時間となりました。講師の温かくもあり力強いメッセージを感じた子供たちは、真剣にこれからの平和学習に取り組むと思います。貴重な体験をありがとうございました。全員が引き込まれるお話、朗読でした。聴いていて、当時の情景や人々の思いを想像することができました。今後も依頼をしたいと思えます。よろしく願いいたします。



○田川市立後藤寺小学校（福岡県）

令和6年11月25日 39名

本校では、毎年8月に全校での「平和学習」に取り組んでいます。

また、国語科の学習においても「戦争」を題材とした物語文に取り組み、平和の尊さについて学んできています。

今回、被爆体験記を朗読していただくことで、当時の子どもたちが感じてきた戦争のおかしさや家族を奪われた悔しさ、平和の尊さについて、当時の子どもたちが綴った詩や作文を通して体験することができたことは、大変良い経験になったと思います。派遣頂いたお二人の話し方が、とても柔らかく、書かれている内容にピッタリでした。児童一人一人に語り掛けるような話し方でしたので、子どもたちにとっても大変伝わりやすかったと思います。



この「寄せられた感想（令和6年度実施分）」に掲載されている写真・文章の無断転用・転載はできません。